

大臣に代わり 声を聞く!

～医療・介護団体へ出張ヒアリング～

◆肝炎調査チームで提案

「官僚だけで、調査しても効果は上がらない。政治家や専門家を入れなければ、国民の信頼なんて得られませんよ。」

フィブリノゲンが原因の薬害肝炎に関する資料問題で、厚生労働省の調査チーム案の説明にきた担当者に私はこう指摘しました。その足で舂添大臣に進言したところ、副大臣、政務官に弁護士も加え、当時の医薬局長などを直接ヒアリングすることになりました。

新聞やテレビでも報道されましたが、人命にかかわる問題だけに徹底的な内部調査を開始しています。

◆出張ヒアリングを企画

また、大臣が年金問題などで多忙を極める一方、医療・介護の現場は大変な状況になっています。そこで、政務官が大臣の代理として、現場の要望を集め、厚生労働行政に反映する「出張ヒアリング」を始めました。

わが国では、フランスの5倍のスピードで高齢化が進行し、毎年、社会保障費が1兆円に迫る勢いで伸びています。その自然増を次世代に借金として残さないために、毎年2200億円削っているのが現状です。

しかしこれが医師不足や偏在の問題に結びついています。苦しい現場の声を聞きながら、どのような手立てを講じるべきなのか、考え直すべき時期にきています。

多くの団体（右の表参照）の要望は互いにぶつかる面もありますが、そこから様々な問題点が見えてきます。また、診療所や病院との連携のあり方や、患者や利用者と福祉の関係の見直しなど、よりよいアイデアの宝庫でもあります。

厳しい倫理規定によって官僚が現場との接触を制限される中、政治家である私が足を運んで各団体と意見交換し、その要望を厚生労働省の各局に伝えて、結果をフィードバックすることは今後、大きな成果を生むと考えています。

後ろ向きのニュースばかりの今こそ、社会保障・福祉の世界で光を探ろうと思います。

厚生労働大臣政務官
衆議院議員

松浪健太

ケンタが意見交換した厚生関係団体

日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本製薬団体連合会、全国老人保健施設協会、日本製薬工業協会、日本病院会、全国老人クラブ連合会、全日本病院協会、日本看護協会、日本在宅介護協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会、日本療養病床協会、全国生活衛生同業組合中央会（11月1日現在）



厚生労働委員会で政務官就任の挨拶

衆議院厚生労働委員会にて、舂添大臣の所信表明の後に「大臣を補佐し、厚生労働行政に精進して参ります。」

大臣政務官、福祉と道州制を語る!!



党厚生関係団体委員会

自民党厚生関係団体委員会にて、厚生労働省を代表してご挨拶しました。今回は医師会など30団体から税制改正に向けて、要望を伺いました。私は昨年まで同委員会の委員長代理を務めていました。

日本看護師会と懇談

厚生労働大臣政務官として、日本看護師協会の久常節子会長はじめ役員の皆様と懇談しました。産婦人科医の不足や、病院における看護師の配置基準について意見を交換させて頂きました。



ミニ集会

毎週末、地元に戻っての楽しみは、有権者の皆様のお声を聞くこと。中央官僚からは聞くことのできない疑問やアイデアを頂きながらの議論は何よりもエキサイティングです。この日の集会に集まったのは全員女性。勉強になりました。

